

式 辞

本日はご卒業、そしてご入学おめでとうございます。ご臨席を賜りました来賓の皆さま方と、宮崎学習センターの関係者とともに、心よりお祝いを申し上げます。

まずご報告でございますが、本センターの所属では、今期16名の卒業生を送り出すこととなりました。

本学の通信制の学びは、ひとえに学生各自の自主性に任されています。毎日決まった時間に講義室に行く必要がない代わりに、各自のライフスタイルに合わせながら計画的に学習を進めなければいけません。

忙しい仕事や家事、専門学校等での学業の寸暇を惜しんで勉学に励まれ、いずれも個別の自主的な学習をたゆまず持続されて、本日を迎えられた皆さま全員に深く敬意を表します。

また、今期は2コース卒業の「パール賞」の受賞者が2名、そして優等生賞である「ひまわり賞」の受賞者は6名おられます。それぞれの方々の優れた達成をここで共に喜び、称えたいと思います。

本学の卒業生及び修了生の方々と接していて、気づいたことが2点ございます。

第1に、自らの学びに対して誇りを持っておられるということです。

わが国のリカレント教育を支援する体制は、残念ながら十分とはいえません。したがって、生涯学習の研究者によれば、大学での学び直しの中でも、特に単位習得に結び付く教育・訓練の参加率はアメリカ、カナダ、イギリス、北欧諸国で社会人の10%を超え、OECD加盟38カ国の平均でも8%であるのに対して、日本では1%に留まっているそうです。その圧倒的少数の1%に含まれる、しかも自発的な意思に基づき身銭を切って学業を達成された方々が、本日卒業を迎えられた社会人の皆さまです。ぜひ根拠のあるプライドをこれからも持ち続けられて、リカレント教育の輪を周囲にも広げていただければ幸甚に存じます。

第2に、未知の領域に対するチャレンジ精神が旺盛であることです。

特に第2以上のコースを選ばれる際には、仕事上の資格取得等に囚われず、例えば文系の方が理系に、理系の方が文系にというように、自らの興味と関心に従って再入学される方が多々見受けられます。こうしたチャレンジは、真の教養にふさわしい文理横断の総合的な知を育む具体的実践といえるでしょう。

卒業生の皆さまにおかれましては、本学での達成にもとづくプライドを持ち、またチャレンジによって獲得された多様なものの見方と総合的な知をもって、携わっておられる仕事の充実はもとより、人生100年時代の一日一日を好日とされますようご祈念申し上げます。

近年は大学院志望者も増えて参りました。すでに再入学を決めておられる方もいらっしゃると思いますが、さらに学びを進めたくなりました折には、異なるコースに、あるいは修士課程や博士課程にも臆せず挑戦なさってください。

ご存知の通り、本学の学びの扉はいつでも、全国のどこにでも開かれています。

本日は誠におめでとうございます。

令和7年9月28日

放送大学宮崎学習センター所長
石川 千佳子